

第361号 2020年1月15日(水) (通巻第560号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 金子 民夫 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和157年6月30日第三種郵便物認可

組合員数116,803人
支部数 938
読者数 70,046人
(5日現在)
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。



「市や県は被災者に寄り添って」という宮本さん



一宮川の支流豊田川沿いで、満潮と調整池に放水で、あつという間葉・茂原支部は、川の氾濫を予測し、止水板で支障を固め、ポンプ排水で備えました。雨も弱まりどうにかしのいだかのように見えた。

懸命に排水したが

千葉 宮本 勤さん
金制度はあっても被災者の立場に立った姿勢に立つべきだ」と語りま



「行政は抜本的な対策を」という齊藤光子さん(右は後藤茂原支部長)

「この30年で4回目の浸水です」と語るのは齊藤光子さん(千葉・茂原支部)。台風15号で屋根が被害を受け、19号では床上1メートルの浸水を受け、泥だらけになりま

市分譲地で4回浸水

千葉 齊藤 光子さん
齊藤さん宅は茂原市が分譲した土地に建てたものですが、たびたび水害にあうのは近くの一宮川よりも低いためです。齊藤さんたちは市に対策を求めてきましたが、大きな工事はやっと始まったばかりで、市の対策は後手後手に回っています。避難所にしても、避難所が床上浸水し避難者を自衛隊のボートで移動させた始末。齊藤さんが行

今号は新年号12頁です

仲間の支援力に 再建へ ふんばる高齢者



全国の仲間からの見舞金を受けとる永田さん(右から2人目)と佐藤県本部委員長(右端)。激励する(左から) 安齋県本部書記長、久保岩瀬支部長

台風被災者に見舞金

年金者組合 7県104人に届ける

9月9日に千葉県を直撃し、大規模かつ長期間の停電をもたらした台風15号。10月12、13日に上陸し、99人ものいのちを奪った台風19号。昨年は日本全国かつてない災害に見舞われた年でした。年金者組合は政府、自治体が高齢者に向けての施策を要求するとともに、被災した仲間104人(床下浸水以上・7県)に全国からのお見舞金を届けました。仲間の支援力に「負けていられない」と被害から立ち上がる年金者組合の仲間を紹介します。

福島県須賀川市館取町に住む永田博さん(福島・岩瀬支部)は、10月12日夜、自宅が2メートルの床上浸水を受けました。近くを流れる釈迦堂川(阿武隈川の支流)が氾濫したためです。高齢で身動きのままならぬ母親を避難

2階に逃げ一夜

福島 永田 博さん
予想以上の増水に、避難所に行くのを母を背負って外に出ましたが、胸まで水につかる状況で、避難はあきらめて2階の水が引くのを待つことにしました。水は家の1階のほとんどを呑み込んだところで止まりました。所で過ごさせるのがためらわれ、自宅にいることにしました。32年前の「8・5台風」の時、釈迦堂川は氾濫したものの、わずかな床上浸水にとどまった経験もありました。

1階、2階別の完全2世帯住宅だったことが幸いして、日常生活には困りませんでした。1階の家具、家電は全滅。その片付けには年金者組合や地域の仲間が助けられてくれました。また、全労連兵済からは共済金が振り込まれ、組合からの見舞金も佐藤県本部委員長、安齋同書記長、久保岩瀬支部長から届けられました。

▼1年金者しんぶん編集長になって満3年。一枚10円や20円のはがきに切手を何枚も足して送ってくれた仲間たちの便りに一喜一憂する日が多い。
▼月にすれば7万円程度の年金ですが、メンタルヘルスで退社し、帰ってきた息子が困らないよう(息子の)年金を毎月払っています。老母の心情に溜息をつき、心まで食いつくすブラック企業への怒りにさいなまれる。
▼失礼ながら笑ったのは「記事に採用されるより、プレゼントの方がよかった」のお便り。身もフタもないようだが、率直な心情ではないか。『もっと詳細を教えてください』のお便りには、喜んで返信させてもらっている。
▼ツイッター、フェイスブックといった一読ですむ通信が全盛の時代。裏面では書き尽くせず、はがきの表面まで綴る仲間がいる。今年は幸せを分かち合えるお便りが多いことを心から願いつつ、本紙への投稿とご愛読と普及をお願いします。

